

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894400106		
法人名	株式会社 にしがき		
事業所名	にしがき豊岡グループホーム		
所在地	豊岡市若松町8-33		
自己評価作成日	平成23年11月10日	評価結果市町村受理日	2012年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所字体が町中の住宅街にあることもあり、入居者の方が今まで住み慣れた町から遠く離れることなく生活をしていただきやすい環境にあると思います。そのため、近所の散歩や近隣の方との交流、祭り等の行事ごとなど今までの習慣や楽しみをなくしてしまうことのないような関わりを目指しています。日々の生活の中でも、今まで暮らしてこられた生活パターンや食生活などもできる限り近づいていけるように、ご利用者様の要望や気持ちを汲み取りながら支援していきたいと思っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は豊岡駅から600mの住宅環境である。法人は丹後・但馬の地で衣・食・住に関する事業を展開しているが、事業所はその介護事業部の1つとして平成22年10月に設立された。開設5年目を迎えた隣接の同法人通所介護の行事に利用者も参加し、グループホームとして少しずつ地域に周知されるようになってきた。自治会に加入し、職員が地域の防災訓練や溝掃除などに参加することにより、地域住民と挨拶を交わせる関係になっている。運営推進会議のメンバーからは積極的な提案がなされ、市の防災無線設置、会報発行、行事内容、ボランティア受け入れ等運営に反映させている。自己評価は管理者とリーダーがまとめたが、日常の業務への気づきとなったと感じている。今後は職員全員でその気づきを検討・共有し、地域密着型サービスとしての理念実践にむけてのモチベーションのアップにつなげてほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
○	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護事業部の介護理念があり、職員全員でその内容を共有して、実践につなげようとしている。	法人介護事業部の「ゆとりと笑顔のある暮らし」を事業所の理念としている。一人ひとりの利用者の時間の流れを大切に、我が家として過ごしてもらえるよう努めている。	創設2年目を迎え、地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を、職員全員で作成されることを期待したい。
○	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事(溝掃除等)での地域の方々との交流や、散歩中の会話などで、交流を図っている。	自治会の地域防災訓練や溝掃除に職員が参加し、住民と顔なじみとなり、利用者の散歩時には挨拶を交わしている。同法人の通所介護の納涼祭や餅つき大会に利用者が参加し、地域住民や子どもたちと交流できた。	事業所前が小学校の通学路であり、今後小学校などに積極的に働きかけ、交流の輪を広げられてはいいかがか。
○		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の中、住宅街の中に事業所があることで、地域の方々へ浸透していている。		
○	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、利用者状況やサービスの実施内容等を報告し、出席されている外部の方々より評価をいただいている。 また、民生委員を通して認知症ケアを知って頂く様に伝えていきたい。	家族、住民代表、地域包括支援センター、知見者(市のOB)などの出席で2か月に1回開催。事業報告を行い、毎回積極的な意見交換を行っている。市の防災無線など提案された内容は速やかに設置した。	地域生活支援の輪を広げるため、認知症に対する正しい理解への啓発活動の展開が望まれる。
○	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点等は市の担当者(高年福祉課等)へ連絡をとり、相談等を行っている。	運営に関する質問などは直接市担当課に出向き助言を得ている。運営推進会議メンバーの市地域包括支援センター職員とも連絡を密にし、気楽に相談にのってもらえる関係である。	
○	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、職員は研修等を通して理解をしていている。玄関の施錠も開放できる時は行いながら、安全確保しつつ身体拘束しないようケアに取り組んでいる。	外部・内部研修を通して、職員は身体拘束をしないケアに関して理解している。玄関の鍵は、利用者が前庭に出ているときなどは開錠し、安全に注意しながら見守っている。	
○	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して高齢者虐待についての理解を職員が行っている。また、虐待が見過ごされることがないように、日々皮膚状態などの確認はもちろんのこと職員間でも意見を出し合いながら言葉遣いなどにも注意している。	虐待防止法に関する内部研修を実施し、職員は理解を新たにした。慣れ親しんだ言葉かけが、時には利用者に苦痛を与えることもあることをミーティングなどで話しあっている。職員の体調等がケアに影響しないように管理者は配慮している。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○	8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については知っている職員と知らない職員がいるので、早急に研修や話し合いの場を持ち、周知徹底を図っていきたい。	管理者は制度に関する研修を受けているが、職員の理解は十分とはいえない。今後、職員が制度への理解を深めるための内部研修を実施したいと考えている。	職員への勉強会を早急を実施し、必要な利用者や家族が活用できるような支援に結び付けてほしい。
○	9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際には、理解・納得していただけるように契約書内容の説明を行っている。また、疑問点や不安についても確認を行っている。	契約時は平易な表現を用いて分かりやすく説明し、疑問点には細かく答え、利用者や家族の理解と納得が得られるよう努めている。終末期ケアに関しては、事業所の対応可能な範囲を契約時に説明している。	
○	10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との話を通して、要望があれば反映することができるように話し合い、実践していている。	意見を言うのをためらいがちな家族の気持ちに配慮し、担当職員から定期的に聞き取るようにしている。年1回アンケートを実施し、ユニット会議で検討し、全体会議、幹部会議につなげ運営に反映させるよう努めている。	
○	11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々でも職員からの意見を聞く機会をもち、また定期的な会議などでそのような場を設けている。	管理者は、職員が気づいたことを気楽に発言できるよう配慮している。例えば、利用者の日常生活動作低下に伴う、ベッド位置変更の提案等を検討し、即実施した。行事等も職員の自主的なアイデアを取り入れている。	
○	12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の状況については直接的に話をする機会や、上司を通じて把握されている。		
○	13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	書面や報告を通じて職員の実績と力量を把握している。また、研修は内部はもちろんのこと、外部のものについても研修内容を掲示したりするなどして、研修機会の確保のための実施を行っている。		
×	14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はできていない。今後は同業者との交流を深め、互いのサービスの質・勉強会等を行い、向上させていきたい。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の事前聞き取りなどでご本人の問題点や要望等を聞き取り、関係を築いていくように努めている。		
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の事前聞き取りなどでご本人の問題点や要望と同時に、ご家族の不安なことや困っていることを聞き、今後の関係づくりに努めている。		
17	○	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に、必要性や緊急性を聞き取り、他のサービスの方がいい場合がないかなどを見極めている。		
18	○	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は生活の場であることを考えながら、出来ることは行っていただいている。		
19	○	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携をもちながら、関係を築いていっている。		
20	(11) ×	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか実践できていない。ご本人の希望を出来る限り支援するよう慣れ親しんだ場所、なじみのある方々と出会え交流をもつていただけるよう努める。ご本人様中心の時間を考えていきたい。	昔の職場の仲間や、法人の通所介護利用時の友人が遊びに立ち寄ることがあり、歓迎している。受診の帰りに自宅周辺をドライブし、思い出の会話をかわすこともある。管理者は、利用者の馴染みの関係継続支援に努めたいと考えている。	今後もより一層利用者の思いを受けとめ、柔軟な支援の実践を取り入れ、引き続き利用者の地域生活を支えていってほしい。
21	○	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら、気の合う方を中心に良い関係を保っていただけるよう支援している。また、孤立することのないよう職員が仲介に入りながら対応している。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている場合は様子を伺いに行ったりして、関係を継続するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
○	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人の思いや希望を受け止め、把握していつている。困難な場合でもその希望に近づけるような対応をしている。	意思表示を促すような声かけに配慮し、利用者の言葉の奥に隠された思いをも汲み取るよう努めている。言語表現できない利用者には、家族とも相談し、しぐさ、表情や簡単な発語から真意を推し量るよう努めている。	
○		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活や暮らし方を大切にして、把握に努めている。		
○		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用前の聞き取りや、24時間シートを作成することで、把握に努めている。		
○	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を中心にモニタリングを行い、問題点や課題について話し合いの場をもつようにしている。	居室担当職員が、利用者の現状を確認しながら課題を記録し、職員全員で検討して計画原案をまとめている。さらに利用者や家族からの要望を聞き取り、医師の意見も参考にして計画を完成させている。状態変化時は随時見直しを図っている。	
○		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケア記録に記入している。また、その記録を確認しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
○		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所のみでなく、同介護事業部の他事業所とも連携をとりながら取り組んでいる。たとえば、デイサービスに温泉があるため、楽しみの一環としてデイサービスに入浴に行ったりしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しながら安全に暮らしていただけるよう協力をもとめることがある。		
○	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携をとりながら、必要に応じて医療を受けていただいている。	これまでのかかりつけ医の受診を前提とし、利用者、家族の希望を優先している。利用者の日常の健康状態等の記録は、必要に応じて医師に情報提供し、家族とともに連携を図っている。	
○		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービス看護スタッフと連携をとりながら利用者の状態をみてもらっている。その意見も参考にしながら適切な受診などを支援している。		
○	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に医療機関に行き情報交換を行い把握するようにしている。また、そうすることで、関係づくりにも努めていっている。	やむをえない入院があった場合、利用者の担当職員が入院先を訪問し、関係者との情報交換を行い、利用者への安心確保と関係づくりに努めている。早期退院に向け、利用者の状態の予測と受け入れ体制の十分な検討を全職員が行い、対応している。	
○	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合で、他施設のほうが適切である場合には相談を行い、利用者にとって最適な状況にしていけるよう支援している。また、終末期においても医療機関やご家族と連携をとりながら支援している。	利用者、家族とは重度化及び看取りについての指針について、文書にて説明、同意を得ている。ただ利用者の状態変化に応じ、家族とはその都度、医療関係者も交え十分な話し合いを通じ、最適な対応方法を検討している。	
○		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修の機会をもち、実践力を身につけていっている。		
○	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を実施し、その実施の際には地域の方々にも声をかけて協力していただける体制づくりを行っている。	年2回の避難訓練(夜間想定含む)を利用者とともに実施している。運営推進会議で、地域防災についての検討と併せ、水害の危機管理についての必要性を確認している。近隣住民との協力体制も進めている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
○	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や日々の職員間での声かけ等を通して、言葉遣いには気をつけている。	日々の利用者への言葉かけ、特に言葉の語尾を大事にしており、家族が同席していても、違和感のもたれない言葉遣いを心がけている。現場ではリーダーを中心に、職員個々に注意し合い、周知に努めている。	
○		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話等の中で希望や要望を聞くようにしている。		
○		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員一人一人が、生活の場であることを認識し個々のペースを大切にしながら支援している。		
○		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛や洗顔など基本的なことを中心し、支援している。		
○	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り行える方には一緒に食事の準備や片付けを行っていただけるよう支援している。	朝夕食は事業所で調理しており、食材は近隣スーパーから一括購入、職員も一緒に食事をしている。昼食は業者に委託しており、職員と一緒に食事はしていないが、準備や配膳、後片付け等は、役割を持った利用者が、職員と共に行っている。	
○		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、確保しにくい場合の対応なども意見を出しながら対応している。		
○		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、又は一日に一回は必ず口腔ケアを行えるよう実施している。拒否が強い方は行えない場合もあります。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
○	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔や状態を把握しながら、自立に向けた支援を行っている。	基本は、トイレでの排泄を重視している。利用者の排泄パターンや癖に併せ、夜間における紙パンツ使用の有無も検討している。利用者個々に24時間シートを作成し、活用している。	
○		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や定期的な運動、または医療機関との連携にて便秘の原因を考えながら取り組んでいる。		
○	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて回数や時間帯を工夫して支援している。	利用者の状態や希望に沿った時間帯に応じて、入浴しており、週2回を目安としている。利用者への声かけのタイミングに配慮しながら、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。	
○		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を元にししながら、休息や睡眠の時間をとれるよう支援している。		
○		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や説明書きに目を通したりと把握に努めている。		
○		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた役割(食事準備や洗濯物たたみ等)、楽しみ(散歩等)などを考え、把握し行っていただけるよう支援している。		
×	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設側だけでなく友人、ご家族様等協力をお願いし、蜜に連絡を取り合い、ゆかりのある方との交流をもってもらえる支援を行っていきたいです。	利用者の希望により、買物や散歩に出かけるようにしているが、積極的に利用者個々への要望を把握、促すには、まだ不十分である。家族等からの情報を得、相談しながら支援に努めていきたいと考えている。	利用者個々の要望を引き出し、実践につなげることを期待したい。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50 ×	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は全て施設側で管理しており、個人個人がもつことはありません。		
51 ×	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどありません。自由に自宅とかわりなくやりたい事を提供していき、誰とでも連絡を取れる支援を行っていきたいです。		
52 ○	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入替えや光の調節などで季節感などを体感していただけるよう工夫している。	季節が感じられる飾り付けを心がけている。ソファや椅子などを適宜配置し、利用者個々にくつろげるようにも配慮している。利用者の五感を通して生活や季節を感じられるよう、工夫に努めている。	
53 ×	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で現在は、独りになれるような場所の確保ができていない。今後は、配置などを考えながら、工夫していきたい。		
54 ○	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の昔の写真を飾ったりなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者、家族には、できるだけこれまで使用していたものや使い慣れた日用品の持込みをお願いしている。昔作った手作り作品や写真などを身近に置いてもらい、落ち着く空間となるよう配慮している。	
55 ○	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることやわかることを把握しながら、あまり制限なく安全に自立して過ごしていただけるよう工夫している。		